

「教職課程年報第7号」の発刊に寄せて

神戸女子大学 学長

中 島 實

今年も「教職課程年報」が発刊される時期となりました。年報には、日頃皆さんがお世話になっている、教職支援センターの教職員や各学科の教職担当の先生方が、教員養成について常々お考えになっていることや学生の皆さんへの期待についてまとめて下さっています。また、教育実習に参加した先輩たちの実習日誌やセンターの活動記録が収録されています。教員採用試験を目指す皆さんはぜひとも本年報を精読されて、早く具体的な行動計画を立ててください。そして、強い信念を持って夢の実現に向けて邁進して欲しいと願っています。

昨年8月、中央教育審議会は「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」を文部科学大臣に答申しました。本学では一学科を除く8学科で教職課程を擁しており、答申に示された内容を精査し、いち早く教員の資質能力向上を支援する仕組みを構築できる体制を整備しておく必要があるでしょう。とりわけ、答申の中で「当面の改善方策」として示されたことについては、学部・学科、既存の大学院修士課程全体のあり方についての検討を急ぎます。これまで、優秀な卒業生によって培われてきた「教育の神女」という伝統をより確実なものにするためにも、現在そしてこれから神戸女子大学で教職を志す学生さんのためにも、教員養成の充実・改善と真剣に取り組まねばなりません。

昨年、学内に「教員養成制度改革研究ワーキンググループ(WG)」を立ち上げ、本学における教員養成制度に関わる種々の枠組みについての議論を積み重ね、今年3月に第1次答申がまとめられました。今後はより具体的に関係する部門ごとに議論をしていただき、本学の教員養成の仕組みを構築していくこととなります。

さらに、大学教育推進会議において教職課程運営・教職指導の充実を図るべく、現在の教職支援センターの教学部門化についての議論を重ねてきました。理事会のご理解をいただき、4月から教職課程に携わる先生方を中心とした全学的な支援組織として新しい教職支援センターが誕生しました。

これから教職を目指す皆さんには、教師の仕事に対する強い情熱はもとより、教育の専門家としての確かな力量や総合的な人間力を培うことが期待されています。皆さん、大変でしょうが希望の実現に向けてどうかベストを尽くして下さい。教職に関わる教職員は全員、皆さんを常に応援しています。